

日本・インド・アフリカ官民フォーラム
(於：イイノホール&カンファレンスセンター)
宮路副大臣閉会挨拶
2月26日（水） 17:00－17:05

外務副大臣の宮路拓馬でございます。

フォーラムの主催者である日本経済新聞社に感謝申し上げますとともに、会議の成功をお祝い申し上げます。

先週、私はオマーンで開催された「インド洋会議」に出席しました。その際、私は、アジアとアフリカを結び、戦略的に重要な海上交通路を擁するインド洋と、我が国が面する太平洋の結びつきはより強まっており、この地域全体を大きな経済圏としてとらえ、共に繁栄を追求していくという目標を確認しました。

そして、この目標を実現するために日本が重視する取組の一つとして、アジアから中東・アフリカに至る経済圏の連結性の向上に言及し、各国との協働を呼びかけてまいりました。この経済圏がもつ多くの潜在力を開花させるには、この地域を多層的に繋いでいくことが必要です。そうした取組の一つとして、本日のフォーラムについても御紹介させていただきました。

インドに進出している日本企業の中には、インドで製造した製品のアフリカへの輸出や、インド企業と協業でのインフラビジネスの開拓を進める等の動きが増えてきていると承知しています。

外務省としても、こうした国境を越えた活動を展開する日本企業の皆様に効果的に支援することを目的に、複数の在外公館において経済広域担当官を指名しています。

インドにおいても、経済広域担当官がインド日本商工会と連携しています。在インド日本大使館は、これまでもインド日本商工会と共に、インド政府に対し、課税基準の明確化やインド標準規格の運用改善等、ビジネス環境改善に関する提案を行い、一步一步、問題を乗り越えてきました。

こうした活動に加え、経済広域担当官が各企業のニーズに応じた情報提供を行いつつ、今後、輸出に際して各企業が直面している課題についても、インド政府に改善を速やかに提案すべく、調整しているところです。

企業の皆様におかれましては、是非、経済広域担当官を活用いただければと思います。

また、アジアからアフリカに至る経済圏において、インド、アフリカ諸国との連結性を強化していくためには、インフラ整備のみならず、人材育成や制度改善も重要です。

日本は様々な国々との協力を進めていますが、一例を挙げれば、昨年7月には、ケニア及びタンザニア政府職員がインドにおいてスタートアップ振興のための公的機関の役割を学ぶ機会を提供しました。

最後に、本年 8 月、横浜で第 9 回アフリカ開発会議、T I C A D 9（ティカッド・ナイン）を開催します。

日本は、1993 年に第 1 回 T I C A D を開催して以来、30 年以上にわたる長い期間をかけて、対話を通じてアフリカ諸国との信頼関係を築いてきました。

「革新的解決の共創、アフリカと共に」のテーマの下で行われた昨年 8 月の T I C A D 閣僚会合も踏まえ、現在 T I C A D 9 に向けた準備を進めています。

本日のフォーラムにおける議論の成果を、来る T I C A D 9 にも繋げ、アジアからアフリカに至る国々と地域に広がる巨大経済圏の一層の繁栄を目指してまいります。

まさに、この広大な経済圏には、世界人口の半分を占める国々が含まれます。これらの国々や様々なステークホルダーと緊密に協力し、国際社会が抱える経済・社会課題の解決策を共に創り上げながら、我が国、ひいては世界全体の発展にも繋げていきたいと考えます。

本日、参加された皆様の益々の御多幸と御健勝をお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。